令和５年度　第３号　令和６年３月

学校運営協議会＆地域学校協働活動だより

（第３回合同会の内容紹介）

南関町教育委員会教育課

会長あいさつ（谷口教育長）

　ご多用な中、関係者の皆様方にはお集まり頂き、感謝申し上げます。また、本日も県統括コーディネーターの山平先生をお迎えしての会議、大変お世話になります。

○　さて、月日の経つのは早いもので、もう年度末の３月に入ります。
本年度の町教育委員会の重点取組の一つであります、『コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進において、子ども達が企画・運営をする参画についても取り組んでいただきました。本年度は５月以降にコロナ制限もなくなり、各学校での取組も活性化してきたように思うところです。学校支援のボランティア活動実績につきましても、昨年度は小中学校でのべ 7,140 人でしたが、本年度はのべ 10,600 人と、のべ 3,460 人もの大幅増となっており、地域の方々に学校のお力添え・支援をいただいていることが数値でも見えております。

○　１・２月には、学習のまとめとして学習発表会等が各学校で工夫して実施されています。三小では収穫祭を、二小では夢蛍音頭の披露・平和を求めて等、四小では伝統行事のどんどやを復活、一小では、全校挙げて「北原白秋の生涯の劇化」等、日頃お世話になっている皆様と一緒に楽しむ行事を工夫したところ、各校好評だったと聞きとても嬉しく思ったところです。

○　本年度は、町内の金型協議会様から、学校教育の充実に向けて、一小は軽トラック・二小は草払機・三小は大型テレビ、四小はミシンをご寄贈頂いています。中学校は来年度と伺っており、ほんと有難い限りです。
金型協議会とは、代表の(株)エム・デイ・エンジニアリング、トヨタレクサスのエンジン部品の製造しておられるエイティ―九州、吉野電子工業、熊本工機、エヌ・エフ・テイ、富士ダイス、ネクサス、小林製作所、二進製作所、テイエフフォー、茂木製作所イーザイ化成の町内 12 社で構成されています。
　更に、(株)バンブーフロンティア、バンブーエナジーの経営をされておられる、(株)モリショウ様からは、子どもたちへの環境教育の充実に向けて、森林の大切さや自然環境の保全などを紹介した『私たちと森林(全５巻)』を小中学校や図書館にご寄贈頂きました。

○　町内の地元企業も職員を町内からも採用というお考えを持っておられますので、子どもたちが地元企業を理解する場も工夫したいと考えます。そこで本年度から地域の企業を知ろうという趣旨でまずは、町校長会でも企業訪問ということでトヨタのエンジン部品を作っておられるエイティ―九州の見学を実施したところでした。子どもたちへの地域の企業理解等の取組み等もこの会で工夫できるのではとの思いで紹介させて頂きました。

○　今日は、これまでの取組を踏まえ、学力向上部会、心づくり部会、体づくり部会、環境充実部会の４部会での Action Plan の検証と、次年度の取組み等の協議が中心となるかと思いますが、その中で、先程お話しした事柄や、本年度の重点取組等について、協議が深まることを期待しています。

本日もどうぞよろしくお願いします。

来賓あいさつ・情報提供（県統括アドバイザー　山平　敏夫　氏）

学んだことを保護者や地域の方々に返していくことは、子どもたちにとってとても大事なことである。また、子どもたちの発表当日の一生懸命さや途中の頑張りを認めていただく中で子どもたちは成長していくので、子どもたちの発表に対して地域の方々の返しがあると子どもたちは益々伸びていく。

地域学校協働活動に大切なことは、ストーリー性をつくるということである。いろんな体験活動をする中で、地域のいろんな方と出会ったり、いろんな体験・発見をしたり、驚き・感動・喜びが生まれ子どもたちは変わってくる。体験活動はとても大切であり、そこで学んだことを人に返していくことが子どもの成長にはとても大事なことである。

この 3 年間の新型コロナウイルスの中で厳しいことも多かったが、今後は大切な行事を復活させる必要があるが、復活させるには相当なエネルギーがいる。行事を復活させる中では、バージョンアップさせることもあり、その作業の中で子どもたちを主催者として活動させることも重要である。子どもたちが地域のために何かできないかと思っている中で、子どもたちの出番を大人たちが作ってやることはとても大事なことである。

「私たちにできること」ということで、子どもたちがよく活動している。南関で自分たちが地域に大切にしてもらいながら育ってきたということを自覚し、今度は地域の人が喜ぶようなことを自分の喜びとするような体験を子どもたちができている。子どもたちが考え、それを大人の人と一緒に考えられるよう、「できることがあったら手伝うよ」といった状況をつくってほしい。この意味では、南関の子どもたちはいい循環を行っており、子どもたちがいい地域貢献まで行っている。このように子どもたちをお客さんにさせない活動が求められているが、ホームページを見るとほんとに充実しており、これだけやられている市町村はあまりない。皆さんのご活躍を期待しています。

【（学力向上）心づくり ・ 体づくり ・ 環境充実 】部会　　記録者（ 田畑　結香 ）

＜本年度の取り組み＞

○南関第一小学校の取組み
・稲作体験にてお米のコンクールに出展（５年生）
・北原白秋の演劇を全校生徒で学習発表会にて発表
・規則正しい生活ができるように生活チェックシートを作成
・門松作りを実施

○南関第二小学校の取組み
・運動会でPTAによる玉入れ等の企画を実施
・人権フェスティバルや子どもたちの祭りやイベントへ参画の機会が増えた。
・梅・陶器まつりで夢ほたる音頭の披露
・さかき診療所とのリモートではなく対面で交流ができた。

○南関第三小学校の取組み
・はぜのみタイムの実施（タブレットを利用し、自主的に問題を解いていく取り組み）
・４年ぶりの収穫祭の実施、子どもたちが主体となり６年生が企画運営を担当
（芋苗植えから収穫までの体験、野菜作り、団子作り、大豆で座禅豆作り、地域の方とのペタリング交流、収穫したお米でおにぎり作り、南関町の歴史、有名人の学習発表）

○南関第四小学校の取組み
・PTA主催のどんどやを４年ぶりに実施、たくさんのOB、地域の方の協力があった。
・学校運営協議会に６年生が参画し、四小つながるプロジェクトの取り組み実施
① あいさつ等を通して登下校でつながる②イベントで交流を通してつながるを目的に、どんどやでは６年生が射的のブースを担当し、会場を賑わせた。
・「農事組合よなだ」の協力を得て、なすの収穫体験を実施（２年生）来年度は植え付けから体験を実施予定。
・わらぞうりづくり（３年生）

○南関中学校の取組み
・読み聞かせを重点的に実施
・補助金でおすすめや読んでほしい本などを保管する本棚を購入
・フィールドワーク（１年生）職場体験（２年生）地域の為に自分達にできること（３年生）
放課後子ども教室、図書館、御茶屋跡の掃除、南関あげ巻き寿司のレシピ作成、サロンとの交流、祭りの準備等に取り組んだ。
・次年度は学校行事を地域へ発信していきたい。
・不登校の理由は様々なため、個別対応を心がけていきたい。

【　学力向上　・　心づくり　・　体づくり　・　環境充実　】部会　　記録者（　加藤　美智子　）

＜本年度の取り組み＞

○南関第一小学校の取組み

・子ども会ビーチボールバレーでは、保護者だけでなく卒業生の協力もあり、とても嬉しかった。
・除草作業において、５月と９月の全体会の間に、６月に１．６年生　７月に２．５年生　８月に３．４年の保護者と児童ですることにより、草が大きくなりすぎず、スムーズに作業できた。
・子どもたちの豊かな心を作るために、問題のある生徒にも地域の方が寄り添う。
・大人側からの継続的な挨拶により、積極的に挨拶をするようになってきた。
・学習発表会では、みんなの前で豊かに表現できていた。

○南関第二小学校の取組み

・ほたる音頭を復活させて３年になるが、子どもが地域のことを学び、「伝える事が嬉しい、楽しい、と話してくれ、地域への愛着が湧いていることを実感した。
・ただ、児童数の減少により、この先どうやって地域の伝統を継いでいくかが心配。

○南関第三小学校の取組み

・収穫祭が４年ぶりに復活、子どもたち主体で案内から当日の進行まで、時々心細い所もあったが、それもまた、自分たちが出来ない部分は周りに協力をお願いすることで、感謝の気持ちに繋がったと感じている。
・プリント、掲示物等どうしたら見やすいか？レイアウトや色使い等しっかり考えていた。
・６年生が主体で準備、企画をするようになり、児童の成長を感じ取れた。
・学校や地域の方に感謝の気持ちを伝えることができた。

○南関第四小学校の取組み

・学校運営協議会への児童の参加。どんどやの射的コーナーを、６年生が企画運営した。
・四小つながるプロジェクトの取り組み。あいさつや祭りを通じて、地域とのつながりを深める。
・「ノーメディア週間」から「親子でふれあい週間」の取り組みに変更。
・読み聞かせの会クローバーによる朝の読み聞かせの実施。校区を越えて全学校へ伺う機会をいただいている。P 数の減少により、町内の読み聞かせ団体のご協力を得ながら、町全体で連携を図ることも必要である。

○南関中学校の取組み

・喜ばせ隊を中心に生徒が自主的に参加、協力したい人がしたいときに活動をしている。
・今年、中学校文化の日で、掲示した作品を町文化祭や役場、中学校近隣の福祉施設に掲示することができ、生徒の頑張りを住民の方に見せることができた。

【　学力向上　・　心づくり　・　体づくり　・　環境充実　】部会　　記録者（　荒牧　典子　）

＜本年度の取り組み＞
○南関第一小学校の取組み ・部活動がなくなり各自でスポーツクラブに入ったり習ったりするようになって、学校では週３回の体育の時間に運動している。昼休みなどは、各学級で遊ぶことを決め遊んでいる。 ・A-life に来てもらい専門的な指導を行ってもらっている。 ・学校では、１２月に持久走大会・マラソン大会を行っている。 ・子ども会では、ソフトボールを１年通して行っている。 ・学校でなわとび大会があるため、家でも練習に取り組んでいる。
○南関第二小学校の取組み ・運動会前には、朝のらんらんタイムでランニングを行っている。 ・持久走大会前にも走る練習をしていた。 ・マット運動などの指導を A-life にお願いしている。 ・子ども会のビーチボールバレー大会やソフトボール大会の練習に頑張っていた。
○南関第三小学校の取組み ・他校でもそうだが、なわとび大会を行ってはどうかと思った。 ・子どもの成長や頑張っている姿が見れてよかった。
○南関第四小学校の取組み ・持久走大会前に５分間走を行うなどして、順位より長い時間を走り切ることに取り組めた。 ・各学年カードを作ってなわとびに取り組んでいる。 ・A-life に週１回入ってもらい、タグラグビーなどを行っている。 ・週１回体育館で各学年が遊ぶ日がある。 ・ノーメディア週間が「親子ふれあい週間」という名になり、完全にメディアなしではなく、親子でふれあう時間にしてもらう。ＰＴＡが考えて行っている。 ・月１回子ども食堂に行って、いつもより食べる子が多数いると話を聞く。食べることで体づくりにつなげている。
○南関中学校の取組み ・食育を通して体づくりまで指導をしている。 ・どんな事をすれば子どもたちが運動をしてくれるか考えている。 ・ニュースポーツを広げたいと考えており、ラダーなどを使うレクリエーションに呼んでもらえば、行って指導します。 ・自力登校の促しを行っている。

【　学力向上　・　心づくり　・　体づくり　・　環境充実　】部会　　記録者（　田中 亜矢　）

＜本年度の取り組み＞

○南関第一小学校の取組み

・夏期に２学年ずつの定期的な作業を実施したが、伸びすぎずに効率がよく好評であった。

・以前から検討している大木の伐採について協議している。

○南関第二小学校の取組み

・今年は晴天の中で引渡し訓練を実施することができた。

・登下校の見守りについては、さかき診療所の方や地域の方々にお世話になっている。

・見守りパトロールの時間を、登・下校時のどちらかの保護者選択にしたところ好評であった。

・登下校の見守りのときに自家用車に張り付けていたマグネットシートが劣化してしまったので、車中に付けるなどの対策を検討している。

○南関第三小学校の取組み

・OB、地域の方に定期的に除草作業でお世話になっている。

・地域の方がお花の植え替えに定期的に来られている。

・推進員も竹切り等を行っている。

○南関第四小学校の取組み

・今年は引渡し訓練を３回実施した。

・大林歯科医院の前の横断歩道が危険なので、PTA や地域の方々に自主的な見守りを実施していただいている。

・P 数の減少はどこの学校でも課題になっている中で、学校の美化作業に１０２名もの地域の方の参加があり感謝している。

○南関中学校の取組み

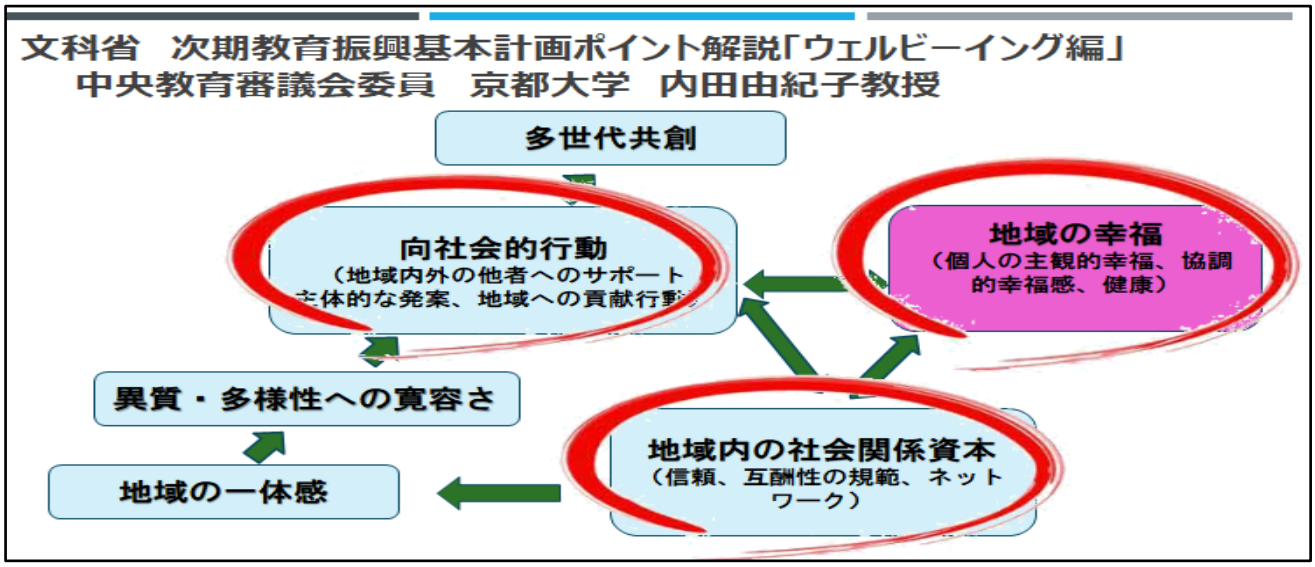
・丸美屋と第二小学校間の道路の街灯が、周囲の木の枝が茂って見えなくなっていたため役場に相談したところ、すぐに対応していただいた。

・日常的な学校の美化作業がなかなかできない。機械を入れたいが予算がない。

ま　と　め　（県統括アドバイザー　山平　敏夫　氏）

今日は、会議に参加して心あたたまるものがあると感じられなかったでしょうか。とても気持ちの良い時間を過ごさせてもらいました。

今、文部科学省は次期教育振興基本計画を６月に出して、日本社会に根差したウェルビーイングの育成について文部科学省のホームページで説明しています。その中で中央教育審議会の委員である内田由紀子先生の話がありますので紹介します。



地域には幸福感の高いものがある。地域が幸福ということは、個人的には幸せとか周りの人と活動していく中で幸せを感じるとか健康とか、そういうものの総合的なもので、地域の幸福感が高いといわれる。南関にも、信頼感がありお互いさまといった繋がりがあり、子どもと地域・学校と地域・保護者と学校・保護者と地域など、南関はとても信頼関係が深い。そういった地域では、向社会的行動をする人が多く、「こうしたら子どものためになるのではないか」・「こうしたら地域のためになるのではないか」などという人が多い。そういう発言をされる方が多いところは、地域の幸福感・信頼関係が高いといわれ、子どもたちの活動にも影響してくる。信頼感があれば向社会的行動をとる人が多いし地域の幸福感が高い、地域の幸福感が高いと地域の信頼関係が高いといわれる。地域の一体感があると何かを阻害するのではなく、いろいろな多様性や様々な立場の人を大切にする。子どもと高齢者も一緒になって新しいものをつくっていくことができる。向社会的な行動をとる人が多い中で子どもたちが育っていけば、大人の背中を見て育っていく子どもたちに信頼感が育むことができ、地域や子どもの幸福感が高まっていく。大人が子どもたちのロールモデルとして背中を見せていく姿があれば、地域の世代を背負う子どもたちが信頼感を高めて育っていく。南関はとても良い循環ができているので、ぜひお互いを褒め合い、向社会的行動を続けていただきたい。そうすることが南関町での子育ての良さにつながり、子どもたちも成長したときに、南関町に住むことを選択の中に入れ町の人口増にも繋がる。

美化作業へのご支援ありがとうございました

本年度も各小中学校で 1～3 回の美化作業があり、防災無線でこの美化作業へのご支援を地域の方に呼びかけましたところ、一小 16 名,二小 28 名,三小 19 名,四小 18 名,南関中 21 名,計 102 名もの方のご支援をいただきました。ありがとうございました。

【地域学校協働活動取組み例】